（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	エスポワールこじか			
○保護者評価実施期間	2025年9月10日	～	2025年9月30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	52人	（回答者数）	52人
○従業者評価実施期間	2025年9月29日	～	2025年10月15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月 7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっており、また、事業所の設備等は、障害や子どもの特性に応じ、バリアフリー化や子どもが個別の部屋で場所を提供している。	手作りで補助する物を準備し、各々の子どもにあった物を安全安心な物として使用できるよう工夫している。	さらに安全面を重視し、今ある衝立やカーテンでの仕切りを作成し、個別に対応できるよう取組みます。
2	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて支援計画に基づいて実施している。支援終了後には、必ず職員間でその日行われた支援の振り返り行い、気付いた点を共有する。	家庭生活が安心、安全に過ごしやすくなるための計画や子育てに生かせる支援の計画を立て個別活動と集団活動の取り組みを実施する。療育終了後、反省会振り返りを毎回実施している。そして、保護者からの情報を共有している。	さらに支援、活動終了後の振り返りを継続し、支援内容についても充実できるように取り組みます。そして、目標に関して、活動となる支援経過表を作成し、取り組みます。
3	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携し、支援を行う体制を整えている。	地域の保健師、心理士や医師とのカンファレンスを定期に実施している。	さらに関係機関との連携を強化するため体制を構築して継続していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援計画の作成や療育を行う際のスタッフの経験年数の差を感じる。 若手スタッフの人材育成が必要と思われる。	課題として、自分たちの組織を十部捉えていない。 また、課題があるのに何から手をつけていいかわからない もう一度組織における課題を整理する。	サービスの質のさらなる向上を図るために目的や特性を踏まえ、職員研修の機会を増やしていく。 学びの場や現場で実践されることで成果につながると考える。
2	地域の中で他の子どもや地域の方との交流や活動する機会が少ない。	子ども園に在籍しながら、週１回だけ療育を利用されているため交流できる機会が少ない。 具体的な活動計画ができていない。 家族が、他の子ども園と交流することに対して抵抗されている。 地域住民を招待する機会が少ない。	地域の情報や他の子ども園と交流できるよう活動計画を立てる。 交流や活動することに関して目的、内容を家族に説明をする。
3			